

県指定文化財<建造物>

てら お の ほうきょういんとう 寺尾野の宝篋印塔

指定日 昭和40年2月25日

所在地 菊池市龍門 寺小野



宝篋印塔は本来、宝篋印陀羅尼經^{だらに}を納める四角形の塔である。四角の石を基壇・基礎・塔身・笠・相輪と順に積み重ねて造る。

この宝篋印塔は龍門ダム下流の天台宗寺尾山大円寺跡参道入口に建っており、高さ2.3m、基礎64cm、塔身27cm、笠部64cm、相輪75cmである。基壇から塔頂の相輪に至るまで一点の欠損も見えず、肥後に残る鎌倉、室町時代の宝篋印塔のうち最も完全なものの一つとして注目され、当初のままの風格をたたえている。

正面に「天授ニ二年卯月蓮忍」(ニニは四の替え字。1378年)の紀年銘がある。この年は17代菊池武朝が肥後守を継ぎ、今川了俊軍と激戦を繰り広げた年である。蓮忍は菊池一族の僧籍にあった人であろうか、詳細は不明である。

笠部は漸次大きくなる三段刻みで、上に馬耳型四隅飾りが立ち上がり、塔頂は伏鉢、請花、宝珠等を刻み込んだ相輪で飾られている。